

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5年 6月 13日

青森市長 様

提出者

住 所 青森市幸畑字谷脇67-7

氏 名 株式会社 東北建設

代表取締役 藤本 辰夫

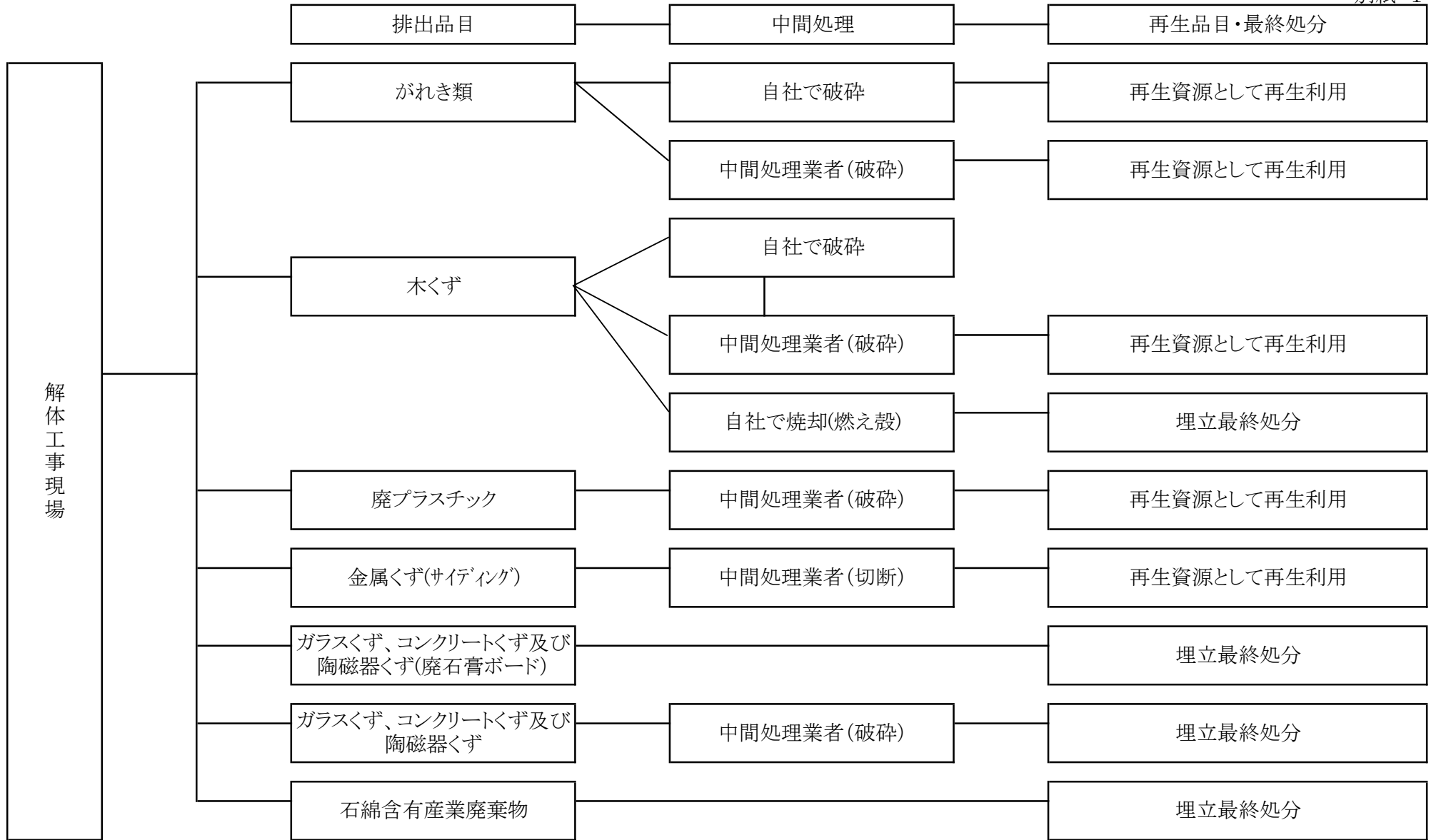
電話番号 017-738-7068

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 東北建設
事業場の所在地	青森市幸畑字谷脇67-7
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	1億円
③従業員数	10人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

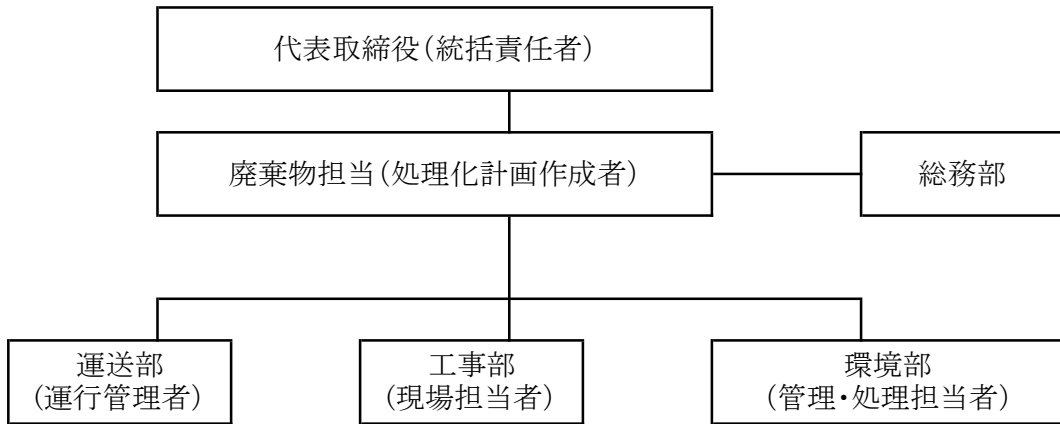
# 産業廃棄物の一連の処理の工程

別紙 1



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 別紙2のとおり

①現状	<b>【前年度( 年度)実績】</b>	
	産業廃棄物の種類	
	排 出 量	t t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	<b>【目標】</b>	
	産業廃棄物の種類	
	排 出 量	t t
	(今後実施する予定の取組)	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 建設リサイクル法に基づき分別・解体を実施している
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 建設リサイクル法に基づき分別・解体を徹底していく

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項				
①現状	【前年度(令和4年度)実績】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	廃プラスチック類
	排 出 量	1095.03 t	318.84 t	5.23 t
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	石綿含有産業廃棄物
	排 出 量	2.24 t	92.88 t	0.55t
	(これまで実施した取組) 再生できるものは種別ごとに分別し、中間処理施設に委託又は自社の事業場にて破碎及び再生利用し再資源化を行い、廃棄物の抑制に努めている			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	廃プラスチック類
	排 出 量	1200 t	300 t	5 t
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	石綿含有産業廃棄物
	排 出 量	2 t	90 t	1 t
	(今後実施する予定の取組) これまで実施している取り組みを更に徹底し排出の抑制を行う			

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項 別紙3のとおり

①現状	<b>【前年度(      年度)実績】</b>		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項 別紙3のとおり

①現状	<b>【前年度(      年度)実績】</b>		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度(令和3年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	1042.34 t	—
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	—	—
	(これまで実施した取組) 種別ごとに分別し破碎処理し、再生利用を行い再資源化を務めている		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	1200 t	—
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	—	—
	(今後実施する予定の取組) これまで実施している取り組みを更に徹底し再資源化を行う		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度(令和3年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—	—
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	—	297.01 t
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—	—
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	—	—	
(これまで実施した取組) これまで自社焼却している取り組みを更に徹底し行う			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—	—
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	—	290 t
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—	—
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	—	—	
(今後実施する予定の取組) 今後も、よりいっそう徹底して行う			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	<b>【前年度(            年度)実績】</b>		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項 別紙4のとおり

①現状	<b>【前年度(            年度)実績】</b>		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 再生利用業者に処理を委託し、できる限り優良認定処理業者へ処理を委託している。		

# 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

## ① 現状 【前年度(令和3年度)実績】

別紙 4

産業廃棄物の種類	全処理委託量	優良認定処理業者への処理委託量	再生利用業者への処理委託量	認定熱回収業者への処理委託量	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
がれき類	52.69 t	6.17 t	52.69 t	—	—
木くず	21.83 t	—	9.2 t	—	—
廃プラスチック類	5.23 t	5.23 t	5.23 t	—	—
金属くず	2.24 t	2.24 t	2.24 t	—	—
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	92.88 t	92.88 t	—	—	—
石綿含有産業廃棄物	0.55	0.55 t	—	—	—
合計	175.42 t	107.07 t	69.36 t	—	—

## ① 計画 【目 標】

産業廃棄物の種類	全処理委託量	優良認定処理業者への処理委託量	再生利用業者への処理委託量	認定熱回収業者への処理委託量	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
がれき類	50 t	10 t	50 t	—	—
木くず	20 t	—	9 t	—	—
廃プラスチック類	5 t	5 t	5 t	—	—
金属くず	2 t	2 t	2 t	—	—
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	90 t	90 t	—	—	—
石綿含有産業廃棄物	1 t	1 t	—	—	—
合計	168 t	108 t	66 t	—	—



②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) これまで実施している取り組みを更に徹底していく		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。  
  
(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。  
  
(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。  
  
(3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによる減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。